

川村 雅則ゼミⅡ

KAWAMURA Masanori Seminar II
参加学生数 10人



川村 雅則
経済学科
准教授



関西大学にて

北海道における非正規労働をめぐる問題と政策課題

研修目的

「派遣切り」に象徴されるような、わが国の深刻な非正規労働問題の実態をアンケート調査や聞き取り調査を通じて把握し、今日の雇用・労働政策をめぐる議論をふまえた上で、その改善策を検討すること。

● 研修地 一札幌市

研修期間・研修先

- 4～8月 文献研究
- 9～12月 調査活動（アンケート・聞き取り調査及びそのとりまとめなど）
- 12月 インターゼミナール大会@関西大学に参加

総 括

ゼミナールⅡでは1年間を通じて様々な活動を実施している。例えば、5月にはタクシー調査を行い、8月には、2年生と一緒に、昨年同様、夕張での調査に参加したものもある。そうしたゼミ活動の中で得られた問題関心にもとづき、研究テーマを学生達自らが選び、12月に開催されるインゼミ大会に参加させている。今年彼らが選んだテーマは、わが国の非正規労働をめぐる問題であった。

ゼミを3つにわけ、(1)公務分野、(2)学校教員、(3)郵政職場それぞれの分野の非正規問題を研究の対象とした。非正規問題全般だけではなく、それぞれが対象とした分野についての文献研究も必要になり（例えば、郵政民営化とは何だったのか）、結果として、夏期休暇中も含め、文献研究や調査活動にはげむこととなった。

調査活動では、(1)指導教員（川村）が集めた大規模アンケート調査の結果と、(2)彼らが独自のルートで非正規労働者を対象に行った聞き取り調査結果を使い、報告書をまとめた。調査活動を通じて、非正規雇用の拡大を雇用形態の多様化と評価する見方が一面的なものであって、実際には、有期雇用・雇止め、低賃金・社会保障制度の不利、キャリア形成の困難など様々な問題を抱えていることを彼らは知ることとなった。12月には関西大学で開催されたインゼミ大会で研究成果を報告した。今年もまた充実した1年であった。



タクシー調査の風景



大阪城をバックに



インゼミ分科会のようなす

学 生 研 修 記



非正規労働者の調査を通じて

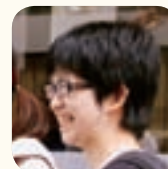
黄金 知広
経済学科3年
紋別北高校出身

私たちのゼミでは非正規雇用を巡る問題の考察の一環として、非正規労働者の方たちへの聞き取りを行いました。

聞き取りの中で感じたことは非正規雇用が不安定な雇用であるということです。賃金は正規と比較して低く、また1年などの短期で契約を更新していくというのは、非正規雇用の不安定さを象徴するものであります。調査報告書の作成に当たって、そのような不安定な雇用である非正規雇用の増加は、活動家である湯浅誠さんが主張するような労働市場の沈下、下へ下へと働く力が強まっていると感じました。現代日本の職場では非正規以外にも正社員の過労など様々な問題があらわれています。地域研修は、非正規雇用の問題は決して他人事ではない、それを理解する為のいい機会となりました。



(写真4点とも) 分科会のようなす



非正規教員が抱える問題について

野々川 華奈
地域経済学科3年
札幌北陵高校出身

私たちのゼミでは、非正規労働者への聞き取り調査を行った。現在日本では、非正規雇用が増加しており、有期労働契約をめぐる問題、均等・均衡待遇等の問題が改善課題となっている。

非正規で働く高校教員から聞き取りを行なったところ、学期終了毎の更新継続に対する不安や同時期に複数校で異なる科目を掛け持ちしているハードさに加え、授業以外での生徒の様子がよく分からず一方的な生徒指導になることへの不満や実態を知り、非正規雇用の不安定さに加えて、「人」を相手にして働く教員など専門職であるが故に抱く不安や精神的負担を感じた。各地で勤務した非正規教員のその経験は多くの生徒や学校、地域にとっても価値あるものであり、現在の採用制度、学校体制ではそれを評価する柔軟さに欠けていると強く感じた。